

# Learn<sup>2</sup> English ～ともに学ぶ英語教育～

## Learning English Together with Children

榎本拓巳、江本博音、桑原育実、小山優華、鈴木万琴、徳武慎一郎、西松周人

指導教員 高橋和子 教授

- 1) 明星大学
- 3) 教育学科

- 2) 教育学部
- 4) 高橋和子ゼミナール

キーワード：主体的・対話的、動機づけ、小学校英語教育、ヒント

### 1. 研究の背景：動機づけ、主体的・対話的な深い学びを中心に

私たちは教育学部で小学校教員を目指し、日々教育について学んでいます。その中でも特に小学校の英語教育について学んでいます。

私たちが教育について学ぶ中で現代の教育でポイントとなることが 2つあると思いました。1つは、「主体的・対話的な深い学び」というワードで、アクティブ・ラーニングなどと言われることもあります。そしてこれに大きく関係してくる 2つ目のポイントは「動機づけ」です。

#### 1.1 動機づけとは何か

簡単に説明します。先に動機づけの話をします。何かを学ぶに当たっての動機は基本的に大きく 2種類あります。1つは内発的動機です。もう 1つは外発的動機です。内発的動機とは学習することそれ自体を目的として、自分の意志で自律的に学習しようとする意欲です。例を出すと、勉強すること自体が楽しいから、自ら進んで勉強に取り組む場合です。外発的動機とは学習することそれ自体ではなく、別の何かを目的として、他律的に学習しようとする意欲です。例えると、単位を落としたくないから勉強する、テストで点を取って良い成績を取りたいから勉強するといった場合です。

#### 1.2 主体的・対話的な深い学びとは何か

この知識を踏まえて「主体的・対話的な深い学び」について考えてみます。「主体的・対話的」ではイメージが付きにくいので反対の意味を考えて

みます。「受動的・独立的」です。例えば受験勉強を例にとってみましょう。発表者の 1人は理科が小学生の頃から大嫌いでした。ですが大学受験の時に必要だったので必死に一人で机に座り教科書と問題集を繰り返し勉強しました。まったく楽しいとは思いませんでした。大学受験が終ったら理科など全く勉強しなくなりました。それに比べ発表者は小学生の時、塾の英語の授業が楽しくて英語が好きになりました。洋楽を聞いてわからない単語があると調べたりしていました。もちろん大学受験でも勉強しましたが、英語は好きだったので苦ではありませんでした。そして、今でも英語に関連した内容を学んでいます。このような経験は、皆さんにもあると思います。

#### 1.3 動機づけから主体的・対話的で深い学びへ

ここでもう一度、動機づけについて考えてみます。私たちは、内発的動機が主体的・対話的で深い学びにつながってくるのではないかと思いました。ある教育研究の結果では、外発的動機での学びよりも内発的動機による学びのほうが長続きするといった結果も出ています。これらのことから、私たちは、どうやったら小学生たちが英語に興味を持ってくれるか、英語の楽しさが伝わるかなど、英語を学ぶ内発的動機へのきっかけになることを意識して活動を考えました。

### 2. 実践報告：夏休み子どもいちょう塾での取組

#### 2.1 活動の流れ

実際に行った活動内容を説明します。まず子供

たちが英語の世界に自然に入り込めるように、簡単な英語の歌を流したり、早く来た子供達には英語の本の読み聞かせをしたり教室の雰囲気づくりをしました。今回の活動のテーマは英語でオリジナル絵本をつくる内容にしました。流れとしては、まず、おもちゃの魚釣りをして自分の主人公を選び名前を決め、今回の活動で出てくる英単語の確認をしました。その後に私たちが用意した教材を子供たちが組み立て、絵や好きな文字などを加えて完成させ、最後にグループに分かれそれぞれ自分で作った本を英語で読むといった流れでした。

## 2.2 実践結果：子供の視点、学生の視点

結論としては、この活動は大成功でした。具体的に説明します。まず子供の視点からですと大きく2つ深い学びに繋がる点があったと思いました。1つ目は、子供が「クラゲって英語でなんて言うんだっけ？」「じゃあ、タコはなんていうの？」といった会話が多く聞こえました。これは、私たちが聞いたりしたのではなく子供たちが自ら疑問に思って聞いてきました。これは、**子供が主体的に学んでいる**ということです。2つ目は最後に自分の本を英語で音読している場面で「A：これなんて読むんだっけ？」「B：これはこうやって読むんだよ」といった分からぬところや疑問に思ったことを子供同士で話し合って考えていました。これは対話的に学んでいることだと思いました。

次に私たち（指導者）視点での気づきをあげていきます。1つ目は**子供の視点に立って考える**ことが大切だと思いました。例えば小学生にとっては自分の名前を英語で書くことはとても難しいことです。それに気が付かず自分たちの視点から物事が進んでしまうと子供にとっては、わけのわからないつまらない活動になってしまいます。2つ目は何かを覚えるとき、記憶するときは**反復が大切**だと思いました。今回の絵本でもよく出てくる単語や表現はすぐに暗記していました。この結果は応用すれば様々な活用法があるのではないかと思いました。3つ目は**ヒントを出す**ことです。子供たちに答えを与えるのではなく、疑問をあたえました、例えばサメの絵を描いている子供に「サ

メって英語でなんていうんだっけ？」と聞いてみました。そしたら「なんていうんだっけー」と少し考えていました。そこで前の黒板には初めに使った単語確認表があったので「あそこに書いてあるんじゃない？」と言ってみたら一生懸命探して「あった！」とうれしそうに言っていました。しかし「なんて読むんだっけ？」と困っていたので「シャから始まらなかたっけ」とヒントをあたえたら「シャークだ！」と分かって喜んでいました。もしここですぐに「サメはシャークって読むんだよ」と教えてしまっていたらそこに疑問や興味は生まれません。しかしヒントを与えると、答えを求めたくなるので、そこに疑問が生じ興味がわきます。そしてわかると楽しくなり関連した他のことにも興味がわいてきます。このプロセスが内発的動機につながっていくのではないかと思いました。

## 3. Learn<sup>2</sup> English:広がる学びの輪

学びにつながるヒントは日常生活にあふれていると思います。すぐに答えを与えるのではなく子供に多くの疑問やヒントを与え学びの輪を広げていくことが大切だと思いました。そして主体的で対話的な学びを繰り返すことで深い学びに繋がっていくのではないかと思いました。

今回の活動は私たちにとって多くの学びがありました。子供の学びの輪を広げる手伝いをするのが大人の役割です。ですが学びに終わりはありません。子供も大人も共に学びの輪を広げていくことが大切なのではないかと改めて思いました。

下図：完成した絵本を読み聞かせる場面

